



平成28年 年頭のご挨拶

* 海外事業展開支援の拡大・進化

* 新手引書の策定

地下管渠工事の社会的費用 ―算定の手引き― (草案)

非開削地下探査技術適用の手引き (草案)



安中 徳二

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

みなさま、明けましておめでとうございます。

昨年の当協会の事業を振り返ってみたいと思います。

海外事業支援ですが、4月には香港STTと香港理工大学でWORKSHOPを開催し、日本から4社のプレゼンテーションを行いました。参加者は香港STTが想定していた人数を上回り参加を断るほど盛況で、日本の技術に興味を持っていることが伺えました。また、香港理工大学土木工学の最新の研究として地中レーダーに取り組んでいることが印象的でした。

1月には米国のヒューストンで開催されたUCT (Underground Construction Technology) や3月にデンバーで開催された「NASTT's Annual No-Dig Show」への参加等の支援も行いました。また、9月には「NO-DIG ISUTANBUL 2015」に参加し、各国STTと情報交換をしましたが、開催国として日本が立候補するのはいつかという質問が多々ありました。

国内の事業では、7月には「海外事業展開のノウハウと期待」と題し非開削技術講演会を、11月には20篇の研究論文による非開削技術研究発表会を開催いたしました。委員会活動では企画委員会では協会の新しい事業の模索に取り組んでいます。編集委員会では機関誌「No-Dig Today」の謹呈先を大幅に見直しました。具体的には大学・高専の土木系学科、20万人以上の都市の上下水道課、農業用水系コンサルタント会

社等を拡大しました。HDD (誘導式水平ドリル) 工法委員会では、昨年の設計積算要領等の見直しを受け、東京と名古屋で講習会を開催します。工法ナビゲーションシステム運営委員会ではホームページの推進と管更生のリニューアルを行いました。ソーシャルコスト検討委員会では「地下管渠工事の社会的費用-算定の手引き- (草案)」を、地下探査技術委員会では「非開削地下探査技術適用の手引き (草案)」を策定し、関係方面に照会し意見をもらうこととしました。

本年の海外事業展開支援として、5月にマレーシアで開催される「Trenchless Asia 2016 Kuala Lumpur」や9月に中国で開催される「INTERNATIONAL NO-DIG BEIJIN」において日本ブースの設置に向け取り組みを強化するとともに海外STTとの連携促進に努めます。一方、国内的には会員に向けた例年の取組みの充実を図るとともに、「地下管渠工事の社会的費用―算定の手引き― (案)」及び「非開削地下探査技術適用の手引き (案)」の策定に向けて重点的に取り組めます。

本年も「なお一層、会員各社のお役に立つため」というスタンスに立ち、取り組んでいく所存です。

新しい年がみなさまにとって輝く年でありますよう祈念して年頭のご挨拶といたします。